

平成21年度第1回稚内市廃棄物減量等推進審議会開催結果(議事録)

1 日時

平成21年6月26日(金) 15:00~17:30

2 場所

稚内市役所3階 市長会議室

3 会議の概要

(1) 開 会

(2) 市長あいさつ

◎横田市長から挨拶

(3) 諮問書交付

一般廃棄物(ごみ・生活排水)処理基本計画策定に関する諮問書

◎横田市長から中陳会長へ諮問書交付

(4) 会長あいさつ

◎中陳会長から挨拶

(5) 審議会

審議に先駆けて、稚内市役所生活福祉部の職員の異動により、事務局職員が変更、交代となった旨の報告があった。

①一般廃棄物(ごみ・生活排水)処理基本計画策定についてのスケジュール説明の審議
事務局より、一般廃棄物(ごみ・生活排水)処理基本計画策定についてのスケジュール説明があった。

以下に、質疑応答に関する発言内容を記載しますが、審議員が特定できないように委員名を伏せています。また、発言の内容についても、審議員が特定できる発言箇所を「■」としています事を予めご承知願います。

【意見・質疑応答】

○は審議委員、●は事務局

- 策定委員会のメンバーは、もう決まっているのですか？
- 現在、探している最中です。審議会の皆さんと重複する場合もありますが、出来る限り審議会、策定委員会と、重複しないようにしたいと思っています。審議会はあくまで審議会としての立場で開催したいのです。
- 審議会の委員がオブザーバーとして策定委員会に出席するというのは可能ですか？
- それは構いません。皆さんの民間ならではの立場でお話をいただければと思っておりますし、今回協力していただける北海道大学の先生方も、もっと市民の皆さんに協力をいただいたほうが良いと助言をいただいたので、今回初めてこのような委員会を設けさせていただくことになりました。
- 長期計画の中では、現実にはうまくいかないこともあるので、5年5年で計画を変更していくということによろしいのですね。
- はい。ただ、現在、計画はうまくいっております。容器包装プラスチックの分別も始まりまし、ごみ袋の有料化も始まりまし。かなり計画に沿って実行できています。
- 専門分野で稚内北星学園大学の先生も関わってもらおうということですね？
- はい。稚内北星学園大学の遠藤准教授は、環境を専攻していらっしゃるんで、地元の見解もいただこうということで、参加していただくことになっております。
- 廃棄物の市民一人当たり量が道内で最悪の順位になっていたのですが、現在はどうかになっていますか？
- 少しずつ上がっています。平成17年度の調査では35市中最下位だったのが、一番新しい調査報告（19年度）では31番目になっています。ただ、他の自治体もごみの減量化をめざしていますので、上位に上がるのは難しいと思われます。たとえば、観光客のごみの排出の問題もあります。旅館などの施設では、観光客のごみの未分別で困

っているとのこと。これらについても、事業者の用意する有料ゴミ袋を買っていただくなどの対策が必要だと考えています。市民が分別をし、ゴミが減量できても、稚内以外の人々が稚内で排出するゴミに対しての抑制をしていかなければ意味がありません。

- 観光客が他都市のゴミを稚内に持ち込んだときの対処の方法なども考えるべきでは？
- 今まではそういう視点がなかったのです。例えば宗谷岬からゴミ箱を撤去しようとか。具体的な視点を審議会で審議し、実行に移すことが大事なのではないでしょうか？
- 衣類の回収場所が少ないのではないのでしょうか？人によっては家から遠い場合もあり、量が多いと運ぶのが難しい場合もあります。一般ゴミとして捨てられていることもありますし。
- 3月の有料化前の大量排出では、やはり衣類が多かったので、私たちも何か良い方法がないかと考えているのですが、使えるものはフリーマーケットで売ろうにも、使えるものはほとんどありません。発展途上国にNPOなどを経由して提供したいのですが、そのルートもありませんし、衣類を送るお金もかかる。衣類の問題に関しては、なかなか難しいのが現状です。
- ウェスに再利用する量はどのぐらいなのですか？
- 全体量でいうと2割あるかどうかです。8割から9割はせっかく集めても捨ててしまっています。また、衣類についてはリサイクルできるものは回収ボックスへ、リサイクルできない汚れたものは一般ゴミへと伝えていきますので、リサイクルか一般ゴミかの判断は市民の皆さんにさせていただいています。回収ボックスを多く設けると、まだまだ衣類は出てくるのではないかとと思われるのですが、回収場所については常時管理人がいる、という条件が必要なので難しいところです。ただ、最近ではボイラーの会社の方が見えられることがあります。例えば衣類を燃やしたときの熱を、銭湯などの湯沸しに利用できれば、衣類の処理に困っているという状況を変えることができるのではないのでしょうか？しかし、液体燃料と違い、固体燃料は人力でボイラーに入れなくてはいけないので、人件費はかかるのですが、お金を出して燃料を買うよりは良いかもしれません。稚内のような遠隔地は、燃料を運ばなくては行けませんが、廃棄物を燃料にできればそれもなくなる。うまくいくかどうかはわかりませんが、考え次第だと思います。

- 大型の焼却施設を稚内に作ることは出来ませんか？
- 稚内市の可燃ごみは30tほどです。しかし、焼却施設は100t以上のごみの量がなければ採算がはいません。また、焼却炉で生んだ熱エネルギーを供給する場所も、稚内市にはありません。大型の焼却施設は、まず不可能と考えています。
- 話を聞いた上で、なるほどと思うことが大きく2点ほどありました。一つは今までは大都市の施設設備を、稚内のような小規模都市で無理矢理運営しようとしていましたが、今後は小規模都市独自の視点で考えていかななくてはいけないということ。もう一つは、観光客にごみの処分の仕方をうまく伝えなければ、観光客に不愉快な思いをさせてしまうのではないかとということです。稚内は観光都市なのだから、その点は深く考えなくてはなりません。どのように対処しなくてはいけないかを審議会でも審議しなくてははいけません。

②家庭ごみ有料化実施に関する報告の審議

続いて、事務局より、家庭ごみ有料化実施に関する報告について説明があった。

【意見・質疑応答】

- 市民一人当たりのごみの量が、稚内は道内で最悪の順位ということですが、原因はなにかありますか？
- ごみの量により、その年のごみの量は大きく変わります。ですから、稚内を含む、海に面している市町村は、結果的にごみの量が多くなっているのではないかと思います。統計上のごみの量は、家庭ごみだけではないので。それと今後ですが、なんでも捨てるという文化を、資源物の分別を始めたことにより、変えていけるのではないのでしょうか？実際、紙類の分別や容器包装プラスチックの分別が始まってからの次の年は、年間のごみの量がかなり減っています。また、水分も大きいと思います。家庭ごみも水分を含んだ生ごみなどが多いのです。
- 人と街は違うかもしれませんが、例として思い出したので話させてください。テストの点数が悪い子にテストで一番を取れというのは、どう考えても難しい。そういう子どもは、次はがんばると言うのですが、自分は何が間違っているのか、何が悪いのかということをきちんと点検していない子どもが多いのです。しかし、平均点を取ら

うと言うと、意外と取ることができる。一番を取るために点検をすることはとても大変な作業ですが、平均点を取るための点検ならば考えることができるんです。そしてそれが出来れば、点数はどんどん伸びる。つまり、街に対しても現実的に可能な目標を具体的に決めて、少しずつそれを実現していけば、点数はどんどん伸びるのではないのでしょうか？

○ 最近はクリーン作戦で海岸などの清掃をしています。まだ不法投棄はありますか？

● 不法投棄に関しては一向になくなる気配はありません。やはり、北海道なので、春と冬と取り替えるタイヤが多く見られます。我々も草などが伸びないうちに回収しようとしているのですが、実際、かなりの数の不法投棄を見つけ出せないでいるのだらうと予想しています。そして、市が回収をしているという点が、不法投棄を増やしているのではないかという懸念も持っていますので、監視カメラの設置なども検討しています。去年の雪が降る前には、かなりの不法投棄を撤去したのですが、今年の春になるとやはり新しい不法投棄がある。不法投棄防止のための看板も、折られていることもありました。

○ それと車の不法投棄はどうなっていますか？全日空ホテル前の右翼の車は最近なくなったようですが。

● あれは自主的に撤去してもらったんです。もう一つ、若葉台球場の駐車場にある右翼の車は、本人と全く連絡がつかないので、最終的にはごみとして処分することになりました。

○ アルツハイマーなどの病気を持っている方は、分別の方法がわからない場合もあるとおもいますが。

○ 私の近所にも一人暮らしのお年寄りがいるのですが、やはり勘違いしてごみを出されている方もいます。

● 実際、分別をきちんとしていないものに対しては、警告シールを貼っているのですが、特にひどい場所を調査してみると、やはりそのような方がいらしたことがあります。そのような方のごみの収集の体制も整えなくてははいけません。これだけは最低限やってもらいたいという、高齢者向けのパンフレットなども現在作っております。我々もそのような排出困難者の方への工夫などもしなくてははいけないと実感しています。

- ある方が朝の散歩のポイ捨てごみを回収しているのですが、不審者と間違われるのではないかと心配しています。例えば、ボランティアだとわかるようなワッペンだとか腕章だとかがあればいいのではないのでしょうか？自発的にそのような活動をされている方は多いと思います。
- 清掃のボランティアだけに限らず、スクールガードなどの見回りもそうですし、共通のちょっとした目印になるものがあるといいかもしれませんね。
- 賛成です。なぜかわからないのですが、一人でごみ拾いをしていると恥ずかしいですよ。稚内市民の皆さんが理解してくれるような目印があるといいと思います。
- この際なので、このことについても審議会で随時考えていきましょう。
- 札幌は草、枝、雑紙は無料になったと聞いて、いい考えかもしれないと思いました。あと、町内会のお祭りのごみの分別の件なのですが、割り箸や焼き鳥の串がごみ袋を破ってしまって困っています。町内会によっては、割り箸、串も分別してほしいと、看板や何かで言っていますが、それでも他のごみ箱に迷い込んでいます。何か良い方法はないのでしょうか？
- 実は最近、イベントで出る割り箸を試験的に集めたいとチラシを出しました。ある会社が間伐材と一緒に処理することが出来るので持ってきてほしいとお話をいただいたのです。とはいっても、家庭では割り箸はなかなか出るものではないので、今年はイベントを中心として回収をしようと思っています。もう一つ、そのチラシにも書いてあるのですが、イベント時のごみ分別の大きなポイントはざるとポリバケツです。結局、汁物の汁を捨てる場所がないために、全部一緒に捨てられて、ごみ袋が重くなる。ちょっとした生ごみを捨てる事が出来る、ざるやポリバケツがあると分別をしていただけるのです。
- 町内で決められたごみステーションではなく、他の町内のごみステーションに家庭ごみを捨てる人がいる。そういう方の住んでいる場所のごみステーションは、鍵が駆られていて、決められた時間しか開いていないという場合が多い。特に国道などの大きい通りに面しているごみステーションは、他の町内からの排出が多いのではないのでしょうか？
- ごみステーションの配置の仕方かもしれませんね。ごみステーションのドアを大き

な通りに面して配置するのではなく、横向きに配置してみるなど、心理的な部分の工夫をしてみてはどうでしょうか？そのようなことはまずにご相談いただきたい。現地を確認してみて、向きを変えるなど、様々な対処をしていきたいと思っています。

- 今、政府の方針で「ごみ」という言葉をなくそうという活動をやっているのですが、ごみステーションもリサイクルステーションなど、名前を変えてしまえばいいのではないのでしょうか？ごみ捨て場と聞くと、なんでも捨てて良い場所と思ってしまうがちですし。
- それとやはり高齢者向けの看板だとか、パンフレットも早急に作ったほうがいいのではないのでしょうか？現在のガイドブックは19ページもありますので、高齢者は読むことが難しいという声があります。
- 有料ごみ袋は予定通り売れているのですか？
- 当初、一番小さい10ℓのごみ袋は全体の一割程度しか売れないだろうと予想していましたが、始まってみると、10ℓが売れてしまい店頭からなくなってしまうという状況になりました。また生ごみの分別が始まることには、一般ごみの中から生ごみがなくなりますので、5ℓ、10ℓ、15ℓ、20ℓの袋を作ることも検討しています。さらに一般ごみは週2回になっていますが、生ごみがなくなるので週1回とし、生ごみを週2回とすることも検討しています。
- ごみ分別や環境についての出前講座の件なのですが、小学校、中学校、高校は年間の指導要領が決まっていますので、一時間出前講座に時間を割くというのはなかなか難しいのです。しかし例えば、15分の紹介ビデオを作るとか、社会見学を行うなどをしてみてはどうでしょうか？教育用の教材なども監修をできる人間もおりますので、活用していただければ、と思います。

(6) 今後の審議会の開催について

◎次回は9月に開催する予定であることを確認。

(7) その他

◎今後の審議会では、策定委員会の意見も踏まえ審議を行っていく。

(8) 閉 会